

1. 活動の概要

活動日時：令和元年 10 月 14 日（月・祝）7:30～21:30

活動場所：長野県長野市・長野保健所 等

支援目的：先遣隊活動

災害被害の概況：10 月 13 日午後 7 時現在、死者・行方不明者 4 名（県災害対策本部報告）。豊野地区 4 か所、古里地区 4 地区、吉田上松地区 1 か所、南部地区 4 か所、須坂地区 2 か所、小布施町 2 か所、千曲市 1 か所ほかの避難所が開設されているが、未確定。千曲川決壊現場近くでは取り残された住民の救助が優先され、ヘリでも救助が続いている。調整本部にあたる組織も十分に全容をつかめていない状況にあった。

活動日の状況：千曲川堤防決壊、長野県及び長野市災害対策本部開設の 2 日目

2. 活動の実際

時間	活動の内容
7:30～	社会福祉法人〇〇会病院（クリニックと介護医療施設を併設）到着。前日の千曲川堤防の決壊後、2メートル以上の水で1階が浸水し、250名ほどの施設入所者・入院患者が取り残されていた。すでに敷地内には各地からの搬送用救急車、自衛隊、外部支援チームが玄関に詰めかけ、随時、上層階から収容者を搬送先に移送する作業が開始されていた。チームメンバーとして搬送の待機をする間、救急車に収容される患者の保温、雨からの防護、声掛け、手書きの申し送り用紙の確認などを行った。その合間に入所者がいったん集められている3階を訪ね、50名ほどの高齢者が廊下の床にマットを敷いた状態で寝かされているのを確認した。その大半がほとんど認知症等でコミュニケーションが難しく、寝たきりの状態であったことが推察された。随時、ピストン輸送で階段を使って1階に下され、救急車で搬送される状態であった。搬送待ちの高齢者への説明や不穏状態の方の保護等を行い、そのほかにも可能な支援を模索したが搬送待ちの状態が続き、看護師や介護士等の人員も充足していたため、30分ほどで現場を離れることにした。
10:15～	決壊現場に最も近いと考えられた指定避難所である〇〇△小学校を訪ねる。200名前後の避難者でごった返しており、到着したとたん、救急車で1名の体調不良者が搬送される場所であった。その背景を確認する間もなく、体育館に詰めていた地方議員より「具合の悪い方がいるのですぐに診てほしい」との要請を受け、対象者の生活のスペースに向かった。〇〇小学校体育館にて3名、隣の児童センターで2名の方のバイタルサイン測定、問診等を行い、急いで医療につなぐ必要性についてアセスメントした。全員が59歳以上の高齢者であり、主に降圧薬、血糖降下薬を家に忘れたまま薬が手元にない、という方々であった。血圧が200mmHgの方、血糖降下薬を忘れた方は、その後体育館で合流したHuMA医師の診察につなぎ、その日そこで協働することになった長野中央病院の看護師を通して血糖測定器を調達した。

	<p>近所から集まったボランティアの女性集団から「やることがないので帰る、でもあの方が昨夜からずっと椅子に座ったままなので気になる」という情報を得たため、女性の体調と意思を確認し、段ボールベッドを作成したら休めるか尋ねたところ、「ベッドなら」という意向が示された。そこで、ボランティアの女性に段ボールベッドの作り方と廃材の調達方法を伝えてその場を離れ、ほかの体調不良の方の要請にこたえた。</p> <p>12時過ぎには長野市保健師が体育館を訪れ、手洗い物品や聞き取りを始めたため、体調不良者や単身の高齢避難者を中心に優先的な要請がないか巡回を行った。手作りの段ボールベッドを見て、自分も使ってみたい、という方が出てくると考えたが、希望を聞いても「こんなに狭い中で自分だけ使ったら悪い」という遠慮がちな回答がほとんどであった。中でも単身の男性高齢者で片麻痺がありずっとパイプ椅子に座ったままの方がいたため、段ボールベッドを勧めたところ使っていただけで、追加派遣された HuMA 看護師、医師、中央病院看護師や体育館に来た民間のボランティアの方々にご協力を求め、段ボールベッドを3基ほど追加作成し、必要と思われる高齢者に使っていた。その間、小学校保健室に障害のある男性2名が収容されている情報を得、HuMA 医師および看護師によって訪問診療がなされたことを確認した。</p> <p>家族単位のスペースを区切るパーティションもまだない中で、単身で障害のある高齢者の身寄りや介護度を聞き取る中では、「知らないところに連れて行かないで」「私たちが見るから大丈夫」という家族ではない周囲の方々の発言が聞かれた。</p> <p>13時を過ぎ保健師が持ち込んだ衛生材料がそのままになっていたため、保健コーナーを作る机を調達し、開設することにした。また、人いきれで蒸し暑いほどの体育館内の差し入れの大量のおにぎりや食材の管理について点検し、市の運営担当者に食品の廃棄基準を明確にし、ゴミ捨て場等の衛生管理についても厳重にお願いした。</p>
13:30～	<p>〇〇△小学校避難所近隣の石区公民館が自主避難所になっており、長野市保健所の HuMA 看護師としての保健所長からの要請を受け、査察、聞き取りに向かった。管理人2名だけが残っており、今朝まで3家族、11名（うち小学生が2名、高齢者が3名）という。高齢者の1名は2本杖歩行であり、ここでは座布団を敷いて寝ている状態のため、ショートステイに預かってもらう予定があるという。指定避難所でないため物資の供給もなく、衛生管理も問題となる見込みから、急病人発生時の対応、夜間の管理体制、近隣の下水処理施設の水没に伴う下水の機能不全を見越したトイレ対策、手洗い、感染症予防対策について情報収集と助言を行った。結果をただちに長野保健所長に報告し、今後の調整会議が支援を行う対象避難所にさせていただくことにした。</p>
15:00～	<p>長野保健所にて「長野地域災害保健医療調整会議（後日、命名）」に出席し、長野市、須坂市、小布施町の避難所開設状況や問題点、明日からの活動について、議論及び情報交換を行った。会議の出席者は、日赤救護班、長野市保健師、介護福祉協会、外部支援 NPO 派遣団（HuMA、TMAT、AMDA など）であった。</p>
18:00～	<p>長野日赤病院にて DMAT 会議に参加。</p>

19:00～	<p>チームが夜間のオンコール担当を行う3避難所を巡回し、避難者の数、状況、夜間の対応などについて情報収集した。長野運動公園避難所には50名ほどの避難者のうち車中泊は目視では確認できず、長野東部中学校は避難所として開設された痕跡はあったが、すでに避難者はおらず、徳間小学校では、2名がいたが訪問時点では戻ってきていなかった。</p>
21:00～	<p>帰宅途中で〇〇△小学校を訪ね、段ボールベッドが4基とも十分に活用されていること、夜間対応としてAMDAの医療チームが着任していること、昼間の体調不良者の確認と引継ぎ事項の伝達を行った。昼間に降雨があり、夜間になってますます避難者が増えたため、玄関先に汚れた靴があふれ、体育館の廊下にまでブルーシートを敷いて下足を收容していること、玄関先に傘立てや不要なものが雑多においてあり、支援物資が次々と入りその收容スペースもないことから、避難所としての生活空間としては大変危険であることが気になった。また、風邪気味なので薬が欲しいという方の要請を受け、人の出入りも終始続いていることから感染予防対策、盗難等の犯罪防止の啓発をAMDA看護師および市の担当者をお願いした。保健コーナーの机が活用され医療者の常駐場所として開設されていることも確認した。</p> <p>また、窮屈な空間で人々がひしめき合っている様子から、運動不足や遠慮からくる不活発症候群などの発症が懸念されたが、午後から運動やマッサージの民間ボランティアが入ってくれて、とても助かったという中央病院の看護師からの報告を受けた。</p>

3. 課題

昨日に引き続き、浸水する可能性のある医療施設の入所者及び診療機能の事前の安全確保の重要性を実感した。施設の立地が広範囲の浸水エリアであることを日ごろから認識し、大雨の特別警報発令前に階上に避難（垂直避難）させる判断、非常電源の機能不全を想定した電子カルテに代わる手書きの身元証明やサマリー、内服薬、必需品等の準備が必須である。また、施設エリアが立ち入り禁止で、家族も被災してほとんど応援には来れず、市内の事情を熟知していない外部支援者の手を借りることなどを想定した「外部支援者の誰でもが引き継げる」対応を考えた訓練をしておく必要がある。

また避難されている方々においては、相談を受けたのが昨日に引き続き血圧や血糖のコントロールのための内服薬も持ち出せずに着の身着のまま避難もしくは救助された方がほとんどで、日頃の備えについてどのようになっていたのか、全く備えがなかったのか、もしくは備えをされていてもどのようなタイミングや状況により持ち出せなかったのか、について確認し、より実効的な対策につながるとよいと考えた。発災後48時間内ではまだ災害医療関係の調整本部が十分把握できていないところで様々な外部支援が入り込むことがわかった。その中でも優先度を踏まえた協働ができたため、救急搬送を要するような急病人の発生はなかったが、急性期における狭い体育館での多人数の收容では、迅速かつ24時間体制での医療支援を行える体制が求められる。

高齢化率が40%を超える〇〇～長沼、穂保地域においては、医療施設にしても、避難所にしても今後、単身の高齢者の行き先や介護の問題が差し迫ることが予想される。また、浸水した自宅の片付けに向かう方々や在宅避難されている方々の健康管理、戸別訪問など、現地の通常の保健業務と外部支援がどのように連携していくか、この時期の調整会議の機能が大変重要であるが、この会議や避難所で感じた長野県の地域性とも思える「真面目さ」ゆえに「自分たちで頑張る」と言い切る心情を踏まえた適切

な外部支援の在り方、被災地の受援力について考えさせられた。